

# インターネット官公庁オークションで公用車を売却

市で不要になった消防車1台・公用車1台をヤフー・ジャパンのインターネット官公庁オークションで売却します。購入希望者はお申し込みください。

**申込期間** 10月23日(月)、午後1時～11月9日(木)、午後2時

**入札期間** 11月24日(金)、午後1時～12月1日(金)、午後1時

**申し込み** インターネットからの参加申し込み。ヤフー・ジャパン官公庁オークションで申し込み、入札となります。

**問い合わせ** 財政課財産管理係 (☎内線 1233)



	消防車	公用車
車種名	日産アトラス	日産シーマ
初年度登録	平成10年	

※写真はイメージです。入札物件は、赤色灯やサイレンなどは外してあります。詳しくは、市ホームページまたはヤフーオークションページをご覧ください。

## 常設展示室で開催中

# 「昭和の前衛——日本のシュルレアリスムと作家たち——」

福沢一郎は、1924(大正13)年にフランス・パリに留学しましたが、そこで出会ったのがシュルレアリスムと言われる文学や美術などの前衛的・革新的な運動でした。福沢は、7年間パリに滞在しましたが、パリからシュルレアリスムに影響を受けて制作した作品を送り、日本で発表することから、日本に本格的にシュルレアリスム絵画を移入した画家として、絵画史上に位置づけられています。

シュルレアリスムという言葉は、ひとりで説明するのはとても難しいことですが、「人間の持っている夢や無意識、想像力などに注目し、生き方の革新をめざした運動およびその思想や表現方法」ということになるとはどうでしょうか。「シュルレアリスムの絵ってよくわからない！」と思っている人は、美術博物館にお出掛けください。きっとシュルレアリスムが身近に感じられると思います。

- 展示作品
  - ▽古沢岩美 「地表の生理」
  - ▽築比地正司 「牛と裸婦」「女と植物」
  - ▽早瀬瀧江 「楽園」「水の中」「戯れ」
  - 「失題」
  - ▽杉全直 「土塊」
  - ▽白木正一 「忘却の谷間」「硫黄島」
  - ▽阿部展也 「花子」
  - ▽瑛九 「曲乗り」「母」

- 観覧料
  - ▽一般210円
  - ▽大学・高校生100円
  - ▽中学生以下無料
- 会場・問い合わせ 美術博物館 (黒川351-1、☎6200)

## 展示替えの様子を紹介

① 鑑賞しやすいようにしっかり位置を決めます。



② 大切な作品なので慎重に展示します。



完成!

## 臨時休館のお知らせ

老朽化している空調設備熱源機器入れ替えのため、全面休館となります。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願い致します。

期間 12月1日(金)～平成30年1月31日(木)

# 市民の文芸

## 俳句 高橋 洋一 選

夫の衣に替へし案山子の怒り肩 (曾木 平井 和子)  
 魂迎へ兄の遺骨の石なりき (下黒岩 吉田シズ江)  
 放棄地の草の光れる露の玉 (富岡 黒澤 克美)  
 蝸の声と声との間に住む (上黒岩 本多八千代)  
 秋立つや法衣をゆらす風の音 (富岡 小池はるみ)  
 子等の声無き校庭の赤とんぼ (下黒岩 野口ちえ子)  
 戒名に在りし日唄び墓洗ふ (中高瀬 佐藤 強)  
 甲子園持ち帰る土汗の色 (上小林 岩井 進)  
 裏庭に咲きゐる桔梗母は亡し (神農原 上原 良雄)

## 短歌 杉山 郁子 選

となり家は人住まずして草深く遅き湯浴みに鈴虫の鳴く (一ノ宮 赤石 静江)  
 穏やかに日々を暮らせる倅せをしみじみ思ふ夏の終りに (白岩 金井 幸子)  
 「母上様」とふ遺書も写真も色褪せし知覧特攻平和記念館を (南蛇井 横田 久子)  
 北のはて日露の狭間の島にたてる古き墓標の願ひ届かず (七日市) 小坂橋光雄  
 栗ご飯に間引き大根のもみ漬けの味たしかめて妻と彼岸会を待つ (七日市) 恩幣 森造  
 赤々と闇の山肌に浮く火文字「晴」といでたり長雨の今年 (七日市) 新井 逸子  
 は 夏休み孫と曾孫ら集まりて賑やかな声絶えることなし (七日市) 宮 和子  
 涼風の吹き込む宿に歌会の仲間と寛ぐ万座温泉 (下高尾) 金田 照治  
 軒下に脚長蜂の巣を見つけ逃げ腰で叩き竿を投げ出す (後賀) 黒田 修司  
 亡き夫の盆の迎えは幾度ぞ年々に孫の成長見える (七日市) 大滝 松代

## 詩 宮前 利保子 選

打ち寄せる波 (一ノ宮) しばのみち  
 夜の砂浜は きつい音がする  
 髪の毛の中まで  
 甘ったるい風が 通りぬけていく  
 誰かさんと手をつなぎ  
 夜の波を見ていると 一人になっていく  
 一人になるから 私は波を追いかける  
 女になるのだろう  
 波はいう 涙の潤んだ目で  
 遠くを もっと遠くを見つめると  
 灯台の光のように 他へ目を向けるなど  
 波は嫉妬ぶかい  
 生まれたての細波の 手を取りあって  
 私を誰かさんから はなそうとしている  
 ビールの白い泡になり おいしく誘うのだ  
 後ずさりして 一人になった私の足は  
 夜の砂浜に もぐりこんだまま動かない

## 川柳 堂 極 選

三年目大きく育て製糸場 (七日市) 浅川 幾雄  
 杖笑い今では杖の世話になり (相野田) 小柴真知子  
 貧乏談議それさえ桁の違いあり (富岡) 大河原富美  
 花茗荷シャキシャキ香る朝の膳 (富岡) 田島八千代  
 夏が過ぎドリンク瓶で山ができ (一ノ宮) 大野 里子  
 強風に年輪負けの大銀杏 (下高尾) 金田 照治  
 踏まれても可憐に生きる草もみじ (富岡) 金井 君代  
 「ありがと」言っていわれてよい気分 (岡本) 轟 陽子  
 夏休み終えて一息爺と婆 (富岡) 湯浅サチ子  
 孫帰りのいつもの無言朝の卓 (上小林) 岩井 進